

## 「大人の教会学校」2018年2月のテキスト

### イエスの祈り（その三）

マタイによる福音書二十六章を見てゆきます。

晚餐が終わって、一同はゲッセマネというところへ行きます。エルサレム郊外のオリーブ山の一隅です。そこへ到着しますと、イエスは弟子たちに向かって、

「私が祈るあいだ、おまえたちはここに座っていなさい」

と言って、ペトロとヤコブとヨハネの三人を連れて先へ進みます。

途中で、怖れにとらえられて、たえがたい気持ちになり、彼らに、

「私の魂はいまにも死にそうに悲しんでいる。おまえたちはここにとどまって、目覚めているように」

と言います。そして独りになってさらに少し進み、うつ伏せになって、

「父よ、あなたには何事もできないことはありません。どうか、この杯を私から遠ざけていただきたい。

しかし私が望んでいるようにしてほしいとは申しません。おぼしめしならば、そうなさってください」

と祈るのです。その時天使が降りてきて、彼をはげまします。苦悩のとりこになって、彼が夢中で祈り続けていますと、汗が血のしずくのようにしたたります。

イエスは苦しみのあまり、混乱を示しているように思えます。聖書のほかのところでは、イエスは、自分がどのような目にあって処刑されるかを明晰に見通して言っています。ユダが裏切ることも、もう最初から決まっていたという口調で話しております。

つまりイエスには、自分について、また自分の周囲について、予定がはっきり見えていたのです。そのように神の予定が着々と進行しているとすれば、イエスはその流れに従って死ぬわけです。しかも死はイエスにとっては望むところです。本懐であるし勝利であるのですから、このように悲しんで気持ちが立ち迷うこともなさそうに思いますけれども、それが実はあるのです。

イエスも人間だなと思えてまいりますが、ここから考えまして、聖書にある予定説が一体何であるかを、われわれは見直さなければなりません。それは、神の予定が人間の内面に、着々と抵抗もなく進んでいくということではないのです。迷いをもたらし、悲しみをもたらし、ほとんど神の予定から外れてしまいそうになるほど、人間はもたえて苦悶するのです。

イエスがそのように祈ってから、弟子たちのいるところへ行ってみますと、彼らは眠っているのです。心外だったでしょう。ペトロに、

「おまえたちは眠ってしまったのか。私と一緒に目覚めていることはできないのか。誘惑に落ちてしまわないために、起きて祈りなさい。精神ははやっても肉体は弱いのだ」

と言います。

「肉体が弱い」という言葉を、イエスは実感から言っているのでしょう。つまり「私の肉体も弱い」ということです。身も心もさいなまれる苦しい時間ですけれども、それでもなお目標に向かって進まなけ

ればならない、と神にすがって自分をもちこたえているかのようです。

しかし、やがて、

「ここで為すべきことは終わった。時がきたのだ。いま人の子は罪人の手に渡されようとしている。さあ、起きるがいい。行こう。私を渡そうとする者が近づいて来る」

と言うのです。

(小川国夫「イエス・キリストの生涯を読む」河出書房新社 141頁～144頁)

- ..... - ..... - ..... - ..... - ..... - ..... - ..... -

キリストは神の身でありながら、神としてのありかたに固執しようとはせず、かえって自分をむなしくして、しもべの身となり、人間と同じようになった。

その姿はまさしく人間であり、死にいたるまで、十字架の死にいたるまで、へりくだって従う者となった。(フィリピの信徒への手紙2・6～9)

したがって、イエスは、あらゆる点で兄弟たちと同じものとならなければなりません。それは、神の前に、あわれみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪をあがなうためでした。というのは、ご自身、試練を受けて苦しまれたので、試練を受けている人々を助けることができるのです。(ヘブライ人への手紙2・17～18)

この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できないかたではありません。罪を犯さなかった以外は、すべてにおいてわたしたちと同じように試みに遭われたのです。ですから、わたしたちは、あわれみを受け、また時機を得た助けの恵みをいただくために、はばかりことなく、恵みの玉座に近づこうではありませんか。(ヘブライ人への手紙4・15～16)

キリストは、この世におられたとき、自分を死から救うことのできるかたに、大きな叫び声と涙とをもって、祈りと願いをささげました。この敬虔のゆえに、それは聞き入れられたのです。彼はおん子であるのに、かすかすの苦しみによって従順を学びました。そして、完全な者とされたので、神に従うすべての人々の永遠の救いの源となり、神によってメルキゼデクの系統による大祭司と呼ばれたのです。

(ヘブライ人への手紙5・7～10)